

## 主体的・対話的で深い学びの実践シート（農業、水産）

1 日時・場所	令和5年11月2日（木）4限 令和5年11月8日（水）3限		3年 教室		
2 対象・人数	農業科3年 40名				
3 科目・単元名	果樹	各論（第6章ナシ・第7章ブドウ・第8章モモ）			
4 本時の目標	グループで作成した各果樹についての説明をクラス全体に向けて発表することで、プレゼンテーション能力を向上させる。また、発表を聴き合う中で、作成したプロセスを振り返り、自身の学びをより一層深める。				
5 生徒の実態や課題	農業科3年生は、全員では初めて科目「果樹」を受講する。科目「総合実習」では、2年次より4専攻（野菜・草花・畜産・果樹）に分かれて実習に取り組んでいるが、果樹専攻以外の生徒は1年生以来果樹についての学習を一切行っていない。また、果樹専攻生はナシ・ブドウ・モモの栽培管理は行っているが、果樹全般の基礎的な内容については初めてであり、どのように興味・関心をもたせるかが課題である。				
6 主体的・対話的で深い学びの場面	<p>①グループごとにナシ・ブドウ・モモに分かれ（各2班）、タブレット端末を使用し調べ学習を行う。  →教科書には記載されていない内容を主体的に考え、各自で調べる。</p> <p>②グループで発表までの役割分担を決め、①の内容や教科書を参考に、スライド作りや発表方法について話し合う。  →これまでに学習した果樹の基礎的な栽培管理などの知識や、実習時に得た技術についても意見を出し合うことで、発表内容の充実につなげる。</p> <p>③プレゼンテーションを実施することで、言語活動の向上に役立てる。  →グループ別に発表を行い、聴衆は発表内容を各自でプリントにまとめ、理解を深める。</p>				
7 ICT活用	生徒用タブレット端末を用いて、果樹の種類（モモ・ブドウ・ナシ）の特徴、栽培管理などについて調べる。その内容をプレゼンテーションソフトにまとめ、発表を行う。アンケート等でアプリを使用し、集計する。				
8 準備・打ち合わせ	<p>使用機器：生徒用タブレット端末、プロジェクター  教材：教科書「果樹」（実教出版）、プリント  使用アプリ：Microsoft Teams、PowerPoint、Forms</p> <p>事前、事後にアンケートを実施し、発表前と発表後での生徒の変化を確認する。</p>				
9 仮説	<p>ICT機器を活用しグループワークの発表をする機会を設けることで、生徒が主体的にスライドの作成方法や発表方法などについて調整しながら話し合い、発表に向けてのプレゼンテーション能力を向上することにつながるだろう。</p> <p>また、自ら調べたことをまとめ、班員と協議を深めながら発表する機会を得ることで、教授型授業に比べて身近な果樹についての知識の定着や栽培技術の習得につながるだろう。</p>				

10 評価するポイント	評価の観点	A (十分に満足)	B (おおむね満足)	C(努力を要する)
ナシ・ブドウ・モモについて栽培上の特性や栽培管理、収穫から出荷まで一連の流れについて調べ、まとめることができる。	主体的に学習に取り組む態度	各果樹の特性や栽培管理について調べ、その内容に興味をもち、自ら主体的に詳しくまとめることができる。	各果樹の特性や栽培管理について調べ、その内容をまとめることができる。	各果樹の特性や栽培管理について、自ら調べることができない。
グループで協力し、スライド作成や発表に向けて積極的に取り組み、分かりやすく発表することができる。	思考・判断・表現	グループ内で積極的に発言し、協力して作業することができる。アプリの操作方法を理解しICT機器を用い分かりやすく発表することができる。	グループ内で自分の役割を理解し、作業することができる。アプリの操作方法を理解しICT機器を使用することができる。	グループ内で自分の役割を理解し、作業することができない。アプリを操作することができない。
11 主体的・対話的で深い学び場面など		 グループワークの様子① 班ごとに話し合いながら、スライドを作成している。	 グループワークの様子② 各自で分担した調べ学習を行い、アプリ内で状況共有している。	
		 プレゼンテーションの様子① 発表者、スライド係など役割分担を行い発表している。	 プレゼンテーションの様子② 写真などを取り入れた見やすいスライドで、聴衆に分かりやすく発表している。	
12 生徒の変容		<ul style="list-style-type: none"> <li>タブレット端末を用いて各自が主体的に調べ学習を行うことができていた。調べた内容はTeams内で共有し、スライド作りに役立てていた。</li> <li>グループワークでは、役割分担は班により偏りがあったが、果樹専攻生が実習で得た知識などを提供するなど、話し合いながら協力してスライド作成や発表原稿作りを行う場面が見られた。</li> <li>事後アンケートから、タブレット端末を使用することが上達した、スライド作成の能力や技術が向上したと感じた生徒は約8割、表現力や言語活動が向上したと感じた生徒は約7割となり、グループワークでのICT機器の活用は効果的であった。</li> </ul>		
13 検証と考察		<ul style="list-style-type: none"> <li>毎授業後、ワークシートを使用して自己評価による取組状況を確認したところ、調べ学習により幅広い知識を習得し、主体的に考えることができた生徒が多かったことから、タブレット端末の使用は主体的な学びに効果的であると考える。</li> <li>個人差はあるが、グループワークにより話し合いの場面が増え、表現力の向上や言語活動の充実が見られた。また、協力して一つのものを作り上げることにより達成感を得られた生徒が多く見られたことから、目標を設定し取り組ませる効果はあると考える。</li> <li>自ら調べ発表したり、他の班の発表を聴いたりすることにより、教授型授業に比べて知識が定着したと感じた生徒は9割を超え、果樹についての知識や技術について理解が深まったと考えられる。</li> </ul>		
14 振り返りと改善		<ul style="list-style-type: none"> <li>事前アンケートでは、果樹の授業に興味・関心がない生徒が約3割いたが、事後アンケートでは興味・関心が深まったと答えた生徒が9割を超える結果となった。教授型授業だけでなく適宜グループワークやICT機器を取り入れ、主体的に学ぶ場面を設定することにより、理解が深まると感じた。</li> <li>役割分担に偏りのある班があり、授業内で取り組むことがない生徒が数名いた。今回は班長に役割分担を任せたが、ある程度の役割を決め、事前に提示することで改善できると考える。</li> <li>スライド作成に動画を取り入れてもよいと説明したが、全てを動画で作成した班があった。生徒からは高評価であったが、プレゼンテーションの意義やソフトの利用についての学習目標を説明する必要があった。</li> </ul>		